Vol. 7

くらし・人・環境を見つめて

I land Fill

－ フェニックス広報誌 －

CONTENTS

INFORMATION
平成19年度予算概要
平成19年度主要事業
処分料金改定のお知らせ

シリーズ ゴミのゆくえ7　搬入施設(基地)編
「エコアクション21」認証・登録
リレーエッセイ　神戸沖埋立処分場を見学して

INFORMATION

平成19年度予算概要

平成19年度の当初予算は、下表のとおり予算規模としては総額364億円、前年度当初予算比39.5%増の内容となっています。

この大幅な増加は主に、大阪沖埋立処分場の平成20年度末の供用開始をめざし、護岸及び場内施設等整備工事が、本格化することによるものです。

また、廃棄物処理事業では、管理型産業廃棄物のスポット的な受入の継続と年度当初に実施する料金改定の効果により高水準の事業収益を見込んでいます。

しかしながら、その一方では減量・リサイクル化の進展等に伴う一般廃棄物・上下水汚泥の受入量の漸減傾向がより鮮明になるものと予側され、さらに、平成20年度末の大阪沖埋立処分場の供用開始後には、相当額の廃棄物処理費用の増嵩などにより、損益・資金収支の両面において厳しい経営局面を迎えることが予側されます。こうした状況から、好調な事業収益を引当として、前年度に引き続き尼崎沖・泉大津沖各処分場閉鎖後の維持管理積立金の積み立てを可能な限り前倒しで実施するなど、将来にわたり持続可能な経営基盤の確保へ向けた措置を積極的に盛り込んでいます。

なお、前年度に引き続き、基本計画の変更に伴う広域最終処分場等整備事業の事業費の調整(過去の補助金、建設委託料の受入)を実施します。

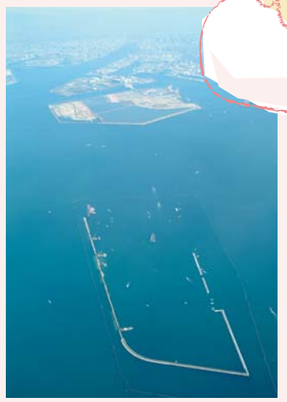
■収入支出予算

(単位：百万円)

支出の部		
項目	19年度予算	18年度当初
廃棄物処理費	9,477	9,261
施設建設費	19,588	11,384
一般管理費	1,799	1,297
借入金返済支出	2,540	2,844
事業外支出	3,000	1,300
予備費	5	5
合計	36,409	26,091

収入の部		
項目	19年度予算	18年度当初
事業収益	14,686	13,297
受託事業収入	19,447	11,569
資本金収入	0	6
借入金	914	416
事業外収入	1,362	803
	36,409	26,091

平成19年度のセンターの主要事業を紹介します



大阪沖埋立処分場

1 大阪沖埋立処分場の供用開始に向けた整備を着実に進めます。

○　大阪沖埋立処分場では平成20年度末の受入開始をめざして、引き続き廃棄物埋立護岸の建設を進めます。その結果、平成19年度末の事業進捗率は約90%となり、東護岸の一部を除いて護岸はほとんど概成することになります。

○　大阪沖埋立処分場の排水処理施設は現在製作中で、平成19年度中には現地に設置します。なお、揚陸施設等は、平成20年度中に完成の予定です。

○　大阪沖埋立処分場供用開始後の大阪建設事務所の全面移転に備え、事業用地の取得や設計等を進めます。また、供用開始までの間は、大阪建設事務所を現在の泉大津市内から、建設現場近傍の大阪市南港のWTCビルに一時的に移転するなど、供用開始に向けた体制整備を図ります。

2 大阪湾圏域の環境保全・環境創造に取り組みます。

○　当センターの環境に対する考え方と取組みの指針を示す環境管理計画や、計画を進めるための具体的な目標や取組方法を示すアクションプラン（行動計画）を策定します。これにより、フェニックス事業を実施していく上で必要となる環境対策はもちろんのこと、事業者としてのごみ減量化や省エネ・省資源の取組み、事業に関連した大阪湾の海域環境再生・創出の取組みを進めていきます。

○　大阪沖埋立処分場の廃棄物埋立護岸に、自然環境にやさしい傾斜型を採用し、また平成18年度に引き続き、泉大津沖埋立処分場の既存の直立型護岸に生態系にやさしいブロック（エコブロック）を試験的に設置するなど、大阪湾海域の環境回復や環境創造に積極的に取り組んでいきます。

○　環境省推奨の環境マネジメントシステムである「エコアクション21」の取組みを引き続き進めます（3面参照）。

3 受入廃棄物の検査体制を強化します。

○　産業廃棄物などの受入量増加や汚染土壌などの処理技術・処理方法の多様化等に適切に対応するため、（仮称）主任検査員を配置し、受入検査体制を充実・強化します。

4 積極的な広報活動を行います。

○　廃棄物の減量化を推進し、貴重な海面埋立処分場の延命化を図るとともに、新たな処分場計画に向けた取組みを進めるためには、積極的にフェニックス事業の広報活動を行い、フェニックス計画への理解を深めてもらうことが必要です。そのため、「フェニックス計画フォーラム」の実施や「アジア主要都市サミット」で環境面での取組みを紹介するなど、ともに循環型社会の形成をめざす関係府県や市町村と連携しながら取り組みます。これらの事業については、堺基地、尼崎沖埋立処分場での花畑の整備とともに、設立25周年記念事業として行います。また、住民や子供たちへの環境啓発や環境教育を推進するため、センター職員が地域や小学校に出向いてフェニックス計画や3Rの推進などについて説明する「フェニックス講座」を実施します。

処分料金改定のお知らせ

産業廃棄物の処分料金を改定します。これによって、長期的な収支の均衡をめざし経営基盤を強化するとともに、あわせて、受入廃棄物に対する厳密な検査体制を整備し、より適正な処理体制の確立を図ります。

改定後の処分料金は、平成19年度契約分から適用します。

どうぞ皆様のご理解をいただきますよう、お願い申し上げます。

■処分料金（消費税額含む）　（単位:円／t）

区　分		現行処分料金	改定処分料金
一般廃棄物		4,830	4,830
産業廃棄物	上水汚泥（公共系）	4,830	4,830
	下水汚泥（公共系）	4,830	4,830
	燃え殻	10,815	12,495
	汚泥A	5,880	6,720
	汚泥B	7,770	8,925
	鉱さい	4,200	4,830
	ばいじん	10,815	12,495
	廃プラスチック類	7,770	9,030
	ゴムくず	7,035	8,190
	がれき類	3,675	4,305
	金属くず	5,460	6,300
	ガラスくず及び陶磁器くず	5,460	6,300
	シュレッダーダスト・ASR	13,230	15,540
	その他の産業廃棄物	10,815	12,495
陸上残土A		1,155	1,155
陸上残土B		1,260	1,260
管理を要する陸上残土		10,815	10,815
浚渫土砂	浚渫土砂は1m³当たりの料金	1,890	1,890

※■部…料金が改定された区分

基地は排出場所と処分場を結ぶ中継ポイント

前回は大阪湾を囲む9つの基地を紹介しましたが、今回は基地編の2回目として、基地に廃棄物が搬入されて、船に積み替えられるまでを順を追って見ていきます。

受付ゲート

まず最初に、廃棄物を搬入する車両は受付ゲートを通過します。その際、呈示された搬入車証のバーコードをコンピュータで読み取ることにより、契約した廃棄物の種類や登録された搬入車のナンバーが表示され、目視検査や搬入者の確認ができるとともに、契約された廃棄物量から搬入量の差し引きが行われます。このような廃棄物に関する情報は、本社に本体を置く廃棄物受入システムにより一元的に管理されています。

①運搬船が来ていないとき
②廃棄物の検査が必要なとき

ストックヤード

運搬船出港中の廃棄物の受入れや、受入基準の適合性をチェックするためのサンプリングを行う施設としてストックヤードがあります。基地により大きさは様々ですが、写真の尼崎基地では5,500t（約5日分）の保管能力をもっています。最近では台風等により運搬船が出港できない場合にも、受入れを即ストップすることがないよう力を発揮しています。

投入ステージ

投入ステージは廃棄物を運搬船へ積み替えるための施設で、海面上に突出して建てられています。ステージの下には運搬船が停泊できるようになっており、スロープを登ってステージに上がったダンプが直接、運搬船へダンピングできる仕組みになっています。ステージから廃棄物を投入する際、舞い上る粉塵が飛散しないようステージと運搬船の間を拡散防止シートで囲い、更にバグフィルターによる集塵を行っています。

処分場へ！

「エコアクション21」認証・登録される

近年、持続可能な成長に向けた循環型社会の形成や地球温暖化対策などの環境問題への取組みが求められていることから、平成17年度より、環境省推奨の環境マネジメントシステムである「エコアクション21」の認証・登録をめざし、ごみ減量化、省エネ・省資源活動等に取り組んできました。その結果、平成18年11月30日に本社が認証・登録を受けました。現在、大阪、兵庫両建設事務所において認証・登録に向け活動に取り組んでおり、平成19年夏の認証・登録をめざしています。

リレーエッセイ

「神戸沖埋立処分場を見学して」

神戸市立原田中学校　1年生

原田中学校（神戸市灘区）の「神戸沖埋立処分場見学会」は、平成18年11月10日(金)に総合的学習の「環境教育」の一環として、1年生3クラス94人と教師7人が参加して行われました。

今号のリレーエッセイは、見学会に参加した生徒のうち2人の感想文を掲載しました。

揚陸桟橋付近での見学風景

岩橋　創(いわはし　はじめ)

神戸沖埋立処分場を見学する前に、ぼくはビデオを見ていくつか新しく知ったことがあります。それは、「フェニックス」という言葉の意味です。ゴミを埋立処分することを「フェニックス計画」というのはなぜかと疑問に思っていました。それが、焼却したゴミが陸地になり、新しく生まれ変わるという説明でよくわかりました。ゴミが陸地になるのは、フェニックス（不死鳥）が炎の中から新しく生まれ変わることに似ているので、ぼくは良い名前のつけかただと思いました。

もうひとつは、ただ単にゴミを捨てて海に埋立てているだけだと思っていたけれど、埋立てた後も排水処理施設で水をきれいにしてから海に戻すということです。見学に行く前まで、クラスのみんなと気にしていたのは、においのことでした。

しかし、そういった空気の汚染状況も調べ、しっかりと環境のことを考えていることを知り、すばらしいと思いました。

実際に処分場の排水処理施設に行ってみると、水をきれいにして放流するまでに、まず前処理をしてからバクテリアで処理し、薬品を使って凝集沈殿という処理をします。その後、殺菌処理をしてやっと海に流せるそうです。ぼくは、前に飲み水を作るための浄水場に行ったことがあったけれど、ここの排水処理施設も環境のことを考え、これだけの時間と手間をかけてがんばってくれているのだと思いました。

水をきれいにするのにも時間がかかるけれど、埋立をするのにも契約してから検査を受けて、ゴミを運んでいかなければいけません。埋立は最終処分の方法で、お金もたくさんいる方法でもあると思います。でも、新しい陸地としてよみがえるので人々の役に立つように活用してほしいと思います。

辻井　美菜水(つじい　みなみ)

私は、まず神戸沖埋立処分場の広さに驚きました。甲子園球場の22倍もの広さがあるのだから、どんどんゴミを埋立てても百年くらいは大丈夫ではないかと思っていました。しかし、この広い埋立処分場がゴミですべて埋まってしまうのに、約15年ほどと聞き、それだけゴミが多いのだと改めて感じました。あんなに大きな広い処分場が、あと15年ぐらいで埋まってしまうのなら、海がどれだけ広くても足りないのではないかと思いました。

次に私は神戸沖埋立処分場で、環境のためにいろいろな工夫がされていることに驚きました。海を汚さないためには、大変なお金と努力が必要だと思いました。埋立処分場の中の汚れた水をきれいにしてから外側の海に流しています。神戸沖埋立処分場で働いている方々は、海やそこに生息している魚や海草などの生物を大切にし、それらに場所を提供して一緒に暮らしていると言えると思います。なぜなら、自分たちが出したゴミが最終的に処分される場所がそこにあるからです。

神戸沖埋立処分場を見学して思ったことは、この埋立処分場を少しでも長く保つように心がけるということです。そのためにはみんなのゴミに対する意識を変えていかなければなりません。しかし、それはたやすいことではないと思います。では、私たちは何をすればいいのでしょうか。それは、私たち一人ひとりがリデュース、リユース、リサイクルの「3つのR」を意識し、少しでもゴミを減らすように心がけることです。私のこれからの目標は、まず自分自身がゴミを減らすように努力していくことです。

編集後記

このたび、センター本社で、環境マネジメントシステムの1つである「エコアクション21」を認証・登録し、職員自らが職場で温暖化防止などの環境問題に取り組んでいます。

ごみの分別等によるごみ減量化をはじめとして、冷暖房の適正化やこまめな消灯などによる省エネ、コピー枚数を減らす省資源など、1つ1つは小さなことです。しかしながら、毎日の積み重ねが地球環境への負担を少なくする、との自覚を各々がもって行動することが大切だと思います。最初は戸惑いますが、すぐに習慣となるものです。

皆さんも、身近なところから環境にやさしい生活を心がけてみませんか。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せ下さい。

（編集スタッフ一同）

i Land fill Vol. 7

発行：大阪湾広域臨海環境整備センター
（大阪湾フェニックスセンター）
http://www.osakawan-center.or.jp/

〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2　ニチメンビルディング9階
TEL　06-6204-1721(代)
FAX　06-6204-1728
E-mail　phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
PRINTED WITH SOY INK この印刷物は大豆インキを使用しています。
2007.03